

施策評価表

京 都 府 南 丹 市
作成日：平成23年6月29日

平成23年度(平成22年度実施)

評価施策名	6 暮らしの安全と安心を守る	施策CD	26	施策主管部	総務部	部長名	上原 文和
政策名	第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る			施策関係部	企画政策部・市民福祉部・農林商工部・土木建築部		

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21	H22		H23	H24
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値
防災行政無線の普及	%	38.8	53.0	53.0	53.0	60.0	100.0
交通事故負傷者数	人	218	226	150	154	150	150
火災発生件数	件	14	8	0	15	0	0

○ 市民生活の安全、安心を確保する。

1 南丹市の現状(課題)

- かけ崩れ等の土砂災害が懸念される危険箇所が、多く残されている。
 - 市街地や山村集落に水害をもたらす河川も未改修部分が多く残されている。
 - 常備消防は、京都中部広域消防組合園部消防署及び3出張所がある。
 - 消防団は、4支団19分団(うち女性分団1)で構成している。
 - 消防団を含めた防災体制の充実が必要である。
 - ハザードマップ、災害時要援護者台帳の有効な活用が必要である。
 - 広範な本市では救急搬送に課題がある。
 - 南丹警察署や地域と連携して、防犯啓発等を推進しているが、犯罪はなくなる。
 - 交通安全施設の整備、充実と啓発を進めているが、交通事故はなくなる。
 - 市内交通事故発生状況(平成18年) 203件 死者5人(5件) 負傷者269人(198件)
- (現状) ・防災行政無線の普及 15.8%・2,144世帯 (平成19年)

2 対策をしなければどうなるのか

- 自然災害により、市民生活の安心、安全が脅かされる。
- 人身に関わる災害も想定される。
- 有事の際、円滑な避難や救助活動ができない。
- 被害の拡大や二次災害の危険性が增大する。
- 医療機関も含め、救急医療体制の整備がなければ、安心して地域で生活できない。
- 犯罪が増えて、市民生活の不安が増大する。
- 交通事故が増える。

3 それは何故おきたのか

- 山間地には未対策の急傾斜地や土石流危険箇所、未改修の河川が数多くある。
- 若者の市外流出や市外通勤者の増加により、消防団員の確保が困難となっている。
- 地域のコミュニティが希薄になり、地域での犯罪抑止力が低下している。
- 交通事故の発生しやすい危険な箇所がある。

4 それらを解決するために何をするのか

- ①救急医療体制の強化を進める。
 - ・広域的な救急医療体制の強化、救急用資機材の充実、救急救命に関する講習会の実施
- ②災害に強いまちづくりを進める。
 - ・河川改修、治山、砂防事業に関する国、府への要望活動の実施
 - ・防災関係機関の連携強化、防災施設の充実、防災シミュレーションの実施
 - ・災害時要援護者を救護できる体制づくり
 - ・消防団員の確保、消防団組織の見直しと充実
 - ・自主防災組織の育成、防災訓練の実施、避難方法、避難場所等の広報啓発活動
 - ・情報防災システムの構築、防災行政無線の整備、防災に要する資機材の整備と更新
- ③安心して暮らせる環境を整える。
 - ・警察や市民、行政が連携した防犯活動、地域における自主的な防犯活動の育成
- ④安全に利用できる交通環境を整備する。
 - ・危険箇所の解消、交通安全施設の整備、交通安全意識の高揚に向けた啓発活動

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

	単位	H20	H21	H22	H23	H24	
決算額(計画額)	千円	552,521	692,584	264,917	222,902	269,608	
財源内訳	使用料・手数料	千円	23,369	29,877	29,756	31,675	31,759
	国・府支出金	千円	98,849	129,733	53,575	20,500	19,594
	地方債	千円	206,500	380,200	0	18,300	77,916
	一般財源	千円	223,803	152,774	181,586	152,427	140,339
職員従事人数	人・年	3.22	9.12	16.04			
人件費	千円	20,778	64,131	111,450			
事業費総額	千円	573,299	756,715	376,367			

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 23 事業 単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	
		うち一般財源	うち人件費
消防水利整備事業(消防水利整備事業)	7,211	7,211	5,269
消防資機材整備事業(消防資機材整備事業)	12,576	9,149	5,220
防災施設整備事業(全国瞬時警報システム整備事業)	13,215	7,875	7,002
河川改修事業(統合準用河川改修費補助 準用河川板野川)	27,048	19,048	2,988
河川改修事業(統合準用河川改修費補助 準用河川板野川)	51,898	36,298	5,088
災害時要配慮者台帳整備事業(災害時要配慮者台帳整備事業)	2,120	2,120	1,869
道路・橋梁維持管理事業(交通安全施設整備事業)	12,372	12,372	4,044

【前年度の評価】(要約)

- ### 【総合評価】
- 防災行政無線の普及(美山エリア)については、予定通り21・22年度の2ヵ年で完成した。交通事故負傷者数については、平成21年度目標値に比べ150.67%、平成20年度比較103.67%であり、引き続き減少に努める。火災発生件数については、平成21年度目標値0に対し、8件の発生、平成20年度比較57.14%と減少している。引き続き火災予防の啓蒙・啓発に努める。防災行政無線園部エリアの整備期間の見直しをする中で、整備内容についての検討をする。南丹市の消防団再編については、平成24年4月運用に向け消防委員会で検討を願う。
- ### 【改善の方向性】
- 引き続き、総合的な危機管理の確立に向け、市民の防災意識の向上と、自助、共助の取り組みを推進する。消防団より提言を受けた「消防団組織再編計画案」を元に、現組織における課題点等を把握し、消防委員会にて協議検討し、時代に即した新しい消防団組織を確立させる。災害時の緊急食料を概ね11,000食(1人3食分として、飲料水を含め人口の約1割)分を5ヵ年計画で整備する。既設防火水槽の老朽化に伴い、漏水やひび割れ等による機能低下が見られることから、浚渫及び補修をすることにより機能の向上を図る。

【評価を受けて取り組んだこと】

- ・交通事故負傷者数については、多発が予想される時期には、「交通死亡事故多発警報」を発令し、交通安全啓蒙啓発を強化し取り組んだ。
- ・火災発生については、引き続き総合的な危機管理の確立に向け、市民の防災意識の向上に向け努力してきた。
- ・消防委員会による「南丹市消防団組織再編計画について」の答申をうけ、消防団全体の活動をより充実強化し、消防団活動を活性化させるために、新しい消防団組織の確立に向け取り組みを開始。

【今年度の評価】

- ### 【総合評価】
- 防災行政無線は園部エリアの整備のみとなった。交通事故負傷者数や火災発生件数については、啓蒙、啓発の努力にも係らず係目標値を上回る結果となった。
- ①目標の達成状況

防災行政無線の普及については、平成22年度で美山エリアが完成し、園部地域を残すのみとなった。交通事故負傷者数については、減少傾向にはあるが、平成22年度も目標値に対して102.7%であった。火災発生件数についても、15件の火災が発生した。
 - ②目標値や施策の考え方の見直し

交通事故、火災発生件数とも減少に向けての方策の検討をい行う。
- ### 【改善の方向性】
- 引き続き、総合的な危機管理を確立するために、市民の防災意識の高揚に努める。
- ①今後の方向性

東日本大震災の発生により、市民の防災意識がかなり高まっている。今後、防災計画の見直しによりさらに防災体制を強化し、市民の防災意識の高揚に努める。
 - ②各事業の対応

防災行政無線については、園部地域の平成24年度事業化に向けて、細部の検討中である。東日本大震災の影響もあり、重要性が高まっている。交通事故負傷者数については、市外からの入込者の事故も多く発生しており、さらに交通安全の啓蒙、啓発に努める。火災発生件数については、目標値を0としているが、15件の火災が発生している。引き続き火災予防の啓蒙、啓発に努める。